

原稿作成要領

(1) 一般の事項

- 1) 以下の書式と表記法は、原稿（本文、注、文献、要旨とキーワード、欧文表題、図、表、写真の表題と注記）に原則として共通するものとする。
- 2) 原稿は、以下のいずれかで作成する。
 - ①完成イメージでの作成…専用テンプレート（本学会 HP に公開）による完成イメージでの作成
 - ②従前形式での作成…A4判サイズの縦置き横書き、22 字×36 行で、左右に 60 ミリ、上下に 40 ミリ程度の余白をとり、5 行おきに行番号を付す。なお、22 字×36 行×2 枚で、印刷時の 1 頁の文字量に相当する。右欄外に図表や写真の挿入希望位置を記し、刷り上がり時の大きさを縮小率、幅（cm あるいは 1 段か 2 段か）のいずれかで指定する。
- 3) 欧文の場合、A4 判に 10.5 pt. 程度の文字サイズで 1 頁 24 行とし、上下左右に各 40 mm 程度の余白を設けること。原稿には 5 行おきに行番号を付すこと。なお、上記書式で、原稿 2 枚が刷り上がり 1 頁に相当する。
- 4) 図表や写真には、第 1 図、第 1 表、写真 1、Fig. 1、Table 1、Photo 1 のように一連番号を付すこと。本文中での図・表の参照箇所（例 第 1 図、第 1 表）を、黄色の背景で着色する。また、本文中での文献引用箇所および文献リストの著者名と出版年については、水色の背景で着色する。詳しくは原稿完成見本を参照のこと。
- 5) 従前形式での作成の場合、原稿に図表や写真には、刷り上がり時の大きさを、幅（原則として 1 段か 2 段か）のいずれかで指定する。

(2) 用語、数量、文字、数式の表記法

- 1) 常用漢字、現代新かな遣いによる漢字かな交じり文を主体とし、副詞や接続詞は原則としてかな書きとする。ただし、術語、文献の表題、引用文、人名等はこの限りではない。
- 2) 外国の人名と地名、外来語、動植物名は、原則としてカタカナ表記とする。
- 3) 動植物等の学名は、斜字（イタリック）体とし、その和名を併記する。
- 4) 暦年は原則として西暦で記す。元号を用いたい場合は、「1896（明治29）年」の表記とする。
- 5) 事項を並列する場合は、原則としてコンマ（、）

を用い、中点（・）は用いない。中点は前後を結んで 1 語とする場合に使うのが原則。

- 6) 数量の表記はアラビア数字を使用し、3 桁ごとにコンマで切る。

(3) 引用の表記

本文等での引用文献および引用文の表記は、単著および共著（2 名まで）の場合は連記し、3 名以上の共著の場合は筆頭著者のみを記し、以下の例にならう：

鈴木（1993）によれば…

…といわれている（Clark, 1990；佐藤，1991，1993；Bush, 1992a, b）。

村上・田中（1993）によれば…

…Smith and Johnson（1992, p. 123）は…

…の研究がある（齊藤ほか, 1995）。

Davis et al.（1990, pp. 45-67）によれば…

「……」（山本，1995, p. 89）。

(4) 本文の書き方

- 1) 本文の第 1 頁には、表題、著者名、著者全員の所属と代表者の email アドレス、ランニングタイトル（刷り上がり頁上部の見出し）のみを記載すること。なお、ランニングタイトルは、25 字以内（欧文原稿の場合は 6 語程度）とする。
- 2) 本文の構成は、「章」をローマ数字の I, II, III…、「節」をアラビア数字の 1, 2, 3…、「項」を片カッコ付数字 1), 2), 3) …で表すこと。
- 3) 文部科学省科学研究費等を使用した場合は、その旨を末尾に記入すること。

(5) 注、図、表、写真の表題、凡例、注記

これらのテキスト（文字）部分は、引用順やそれぞれの番号順に配列して、原稿の末尾に一括する。

(6) 文献の書き方

- 1) 文献は、著者名のアイウエオ順に配列した和文を先に、著者名の ABC 順にした欧文を後に書く。
- 2) 同著者の同一年次の文献は、年次の後に引用順に a, b, c…を付して区別する。
- 3) 欧文の書名と雑誌名は、斜字（イタリック）体とする。

- 4) 雑誌名の略記については、慣例にしたがうこととし、過度に省略しない。
- 5) 巻数は、太字体とする。
- 6) 通し頁のある雑誌は、巻数、通し頁で表記し、通し頁がない雑誌は巻数の後に号数も付すこと。オンラインジャーナルの場合、頁数がなければ、これに代わる論文番号あるいは DOI を付すこと。
- 7) 出版地が東京以外の場合、明記すること。
- 8) 他は、以下の表記例と本誌最新号を参照のこと。
- ・単行本 (和書)
 - 松井 健・近藤鳴雄 (1992): 土の地理学—世界の土・日本の土—。朝倉書店。
 - ・同 (洋書)
 - Gregory, D. (1994): *Geographical Imaginations*. Blackwell, Cambridge.
 - ・編集本 (和書) の一部
 - 藤田佳久 (1994): 農村風土の基本的構図。藤田佳久・菊地俊夫・西野寿章編: 人間環境と風土。大明堂, 1-11.
 - 三浦 修 (1992): 風土に育まれた屋敷林・イグネ。塚本哲人・渡辺信夫・米地文夫編: 風土にみる東北のかたち。河北新報社, 仙台, 126-154.
 - ・同 (洋書) の一部
 - Hägerstrand, T. (1995): Landscape as overlapping neighbourhoods. Benko, G.B. and Strohmayer, U. eds.: *Geography, History and Social Sciences*. Kluwer Academic Publs., Dordrecht, 83-96.
 - ・翻訳本
 - レルフ著, 高野岳彦・阿部 隆・石山美也子訳 (1991): 場所の現象学—没場所性を越えて—。筑摩書房。Relph, E. (1976): *Place and Placelessness*. Pion, London.
 - ・編集本の訳本の一部
 - ジャービス, B. (1985): 真実は宿無しにしかわからない。バージェス, J.・ゴールド, J.R. 編著, 竹内啓一監訳 (1992): メディア空間文化論—メディアと大衆文化の地理学—。古今書院, 107-150. Burgess, J. and Gold, J.R. eds.: *Geography, The Media and Popular Culture*. Croom Helm, London.
 - ・論文 (邦文)
 - 米地文夫 (1995): 戊辰戦争~明治初年における地名「東北」—史料および明治前期地歴教科書の分析—。季刊地理学, 47, 267-284.
 - 友澤和夫 (1995): 工業地理学は何をめざすか。地理, 40-2, 72-76.
 - ・同 (欧文)
 - Pile, S. (1993): Human agency and human geography revisited: a critique of 'new models' of the self. *Trans. Inst. Br. Geogr. N.S.*, 18, 122-139.
 - Browning, T. N., & Sawyer, D. E. (2021): Erosion and deposition vulnerability of small (< 5,000 km²) tropical islands. *PLOS ONE*, 16-9, e0253080.
 - Hayakawa, Y.S., Oguchi, T. and Lin, Z. (2008): Comparison of new and existing global digital elevation models: ASTER G - DEM and SRTM - 3. *Geophysical Research Letters*, 35-17, DOI: 10.1029/2008GL035036.
- 9) web ページにある情報を引用した場合は、下記の例にならひ、web ページの作者名あるいは制作機関名、作成年、刊行物、未刊行資料あるいは web ページの名称、URL、および閲覧日を、注あるいは文献として記載すること。ただし、作成年については、それが引用する刊行物、未刊行資料、web ページに明示されている場合のみ記載すること。また、情報がダウンロード可能な形態で掲載されている場合には、掲載ページの URL を記すこと。
- ・注としての表記例
 - 注番号) 東北農政局, 基本政策, <http://www.maff.go.jp/tohoku/kihon/index.html> (2008年12月16日閲覧)。
 - 注番号) Physical Sciences Division of the Earth Systems Research Laboratory, PSD Climate and Weather Data, <http://www.cdc.noaa.gov/data> (2008年12月16日閲覧)
- (7) 要旨とキーワードおよび欧文表題等の書き方
- 1) 要旨の長さは、和文 500 字以内、欧文 1,000 語以内とする。
 - 2) キーワードは、7 語以内とし、要旨の後に記す。欧文要旨をつける場合は、欧語キーワード (7 語句以内) をその後につける。
 - 3) キーワードは、検索の便宜を図るためのものであることをふまえて、研究分野、研究対象、方法、研究地域を端的に表すものを選ぶこと。
 - 4) 欧文表題 (欧文要旨と欧語キーワード) の後に、欧語で著者全員の所属と代表者の email アドレスを明記すること。
 - 5) 欧文原稿の場合は、上記の欧文表題等を和文表題等に適宜読み替えること。

6) 欧文は、著者の責任において、語学的に吟味されたものであること。

(8) 図、表、写真に関する留意点

- 1) 図と写真はそのまま印刷可能なものとする。
- 2) 図と写真にカラーを用いることも可能であるが、グレースケールで表現しうる図と写真についてはグレースケールを用いること。
- 3) カラー図版は、印刷媒体と電子媒体の両方で用いる場合と、電子媒体でのみ用いる場合を選択できる。後者の場合、印刷媒体ではグレースケールで印刷される。この場合、当該図版のキャプションには「(電子版ではカラー)」と付記すること。
- 4) 刷り上がり時の図表と写真の大きさは、表題、注記も含めて最大 14 cm × 19 cm (1 頁) である。また、誌上での割り付けは、原則として 1 段幅 (7 cm 以内) か 2 段幅 (10~14 cm 程度) のい

れかである。

- 5) 作図にあたっては、縮小効果を考慮し、0.1 mm 以下の線やパターン、記号が判読不能にならないように配慮すること。
- 6) 図中の文字は、縮小を考慮して判読可能な大きさで作成する。
- 7) 表は、過度に複雑になったり長大にならないよう配慮する。
- 8) 原稿採択時、完成イメージで原稿を提出している場合は図、表、写真を別ファイルでも提出する。

(9) 電子付録・J-STAGE Data 電子関連資料

電子付録・J-STAGE Data 電子関連資料の作成については、電子付録・J-STAGE Data 利用規定を参照のこと。

(10) その他

本要領は、73 巻 3 号から適用する。

季刊地理学 電子付録・J-STAGE Data 利用規定

1. 季刊地理学にて審査の上で掲載される原稿記事に対して、その著者は電子付録あるいはJ-STAGE Dataによる電子関連資料の公開を申請することができる。編集委員会によって搭載が認められた電子付録、電子関連資料は、冊子体に含まれず、J-STAGEのウェブサイトにおいてのみ公開される。
2. 電子付録・J-STAGE Data 電子関連資料を付す場合には、著作権や個人情報を保護する措置等、公開に当たって事前に処理すべき事項を、著者が責任を持って行う。以下に、公開すべきでない状況が発生する一般的なケースを示す。
 - (ア) 分野・研究コミュニティの慣習等で公開制限が一般的なデータ：絶滅の恐れのある野生動物の生息地の詳細や取引など。
 - (イ) 個人情報を含むデータ：一般に個人情報保護法などにより保護されるべき個人を識別しえる情報。公開の許諾を得ていない個人情報を含むデータなど。
 - (ウ) 国家安全保障や国際関係に関わるデータ：兵器に関わるものや国民生活の安全に関わる機微情報。
 - (エ) 共同研究契約や個別の契約により公開が制限されているデータ。
 - (オ) 所属機関、研究助成機関によるデータ公開ポリシーで公開が禁止されている場合。
3. 電子付録
 - (ア) 電子付録とは、原稿中に掲載しないが内容の理解を助ける上で有用な補足的電子資料である。典型的には高解像度の拡大画像による図や、データを細分化した集計表などの図表、研究組織の詳細、動画・音声資料などがある。電子付録は、J-STAGE「季刊地理学」の当該記事掲出ページからダウンロードできる形で配信される。
 - (イ) 電子付録を構成するファイルは、1ファイルにつき50MBが最大であり、100件までファイルを付すことができる。ただし大量のファイル(10件以上)を電子付録として公開したい場合は事前に編集委員会に確認する。
 - (ウ) 電子付録のファイルには標準的な形式を利用する。
 - (エ) 電子付録にはタイトルを付す。例「電子付録S1 青葉山スタディ調査票日本語版」
 - (オ) 電子付録には必要であれば2,000字以内の説明を付すことができる。
 - (カ) 原稿中で電子付録を参照することができる(例「なお、調査票の詳細については電子付録S1を参照されたい。」)。また、原稿本文の末尾に以下のように電子付録のリスト情報を記載する(例 電子付録：S1 青葉山スタディ調査票日本語版, S2 青葉山スタディ調査票英語版, S3 出生コホート別に層化した場合の分析結果)。
 - (キ) 電子付録は原稿投稿時にのみ付すことができる。ファイルは通常の投稿と同様にemail添付で提出する。ただしファイル容量が大きい場合にはファイル転送サービス等を利用して提出すること。
 - (ク) 電子付録の著作権は通常の季刊地理学掲載の原稿記事と同様に、東北地理学会に帰属する。
4. J-STAGE Data 電子関連資料
 - (ア) J-STAGE DataとはJ-STAGEと契約する学会機関誌にて審査の上で掲載された原稿に関連する資料(データ)を、第三者による再利用を前提として公開するものである。
 - (イ) J-STAGE Data 電子関連資料にはDOIが付され、J-STAGE Dataに登録される。J-STAGE Dataのウェブサイトにおいて、それ単独で検索・ダウンロードの対象となる。対応するJ-STAGE「季刊地理学」の原稿記事とJ-STAGE Data 電子関連資料は相互参照がJ-STAGEのウェブサイト上で設定される。研究成果の根拠となった研究データ、データ処理に利用したプログラムコード、現地調査によって得られた画像・動画資料、開発した教材スライドなど、研究成果の中で二次利用が期待される資料が対象となる。なお電子付録

- と内容が重複してもよい。
- (ウ) J-STAGE Data 電子関連資料の著作権は東北地理学会ではなく著者に帰属する。ただし、再利用を前提に公開するものであり、ライセンスは以下から選択する。CC-0 (デフォルト) / CC BY-SA 4.0 / CC BY-NC-ND 4.0 / CC BY-ND 4.0 / CC BY-NC 4.0 / CC BY 4.0 / Apache-2.0 / GPL-3.0 / GPL2.0 / GPL / MIT / CC BY-NC-SA 4.0 (クレジットの表示、非商用利用を義務付ける CC BY-NC 4.0 を学会としては推奨するが、著者が選択して構わない)
 - (エ) J-STAGE Data 電子関連資料 1 件 (複数のファイルから構成されていてよい) は、5 GB が最大である。J-STAGE Data 電子関連資料は、1 つの原稿に対して複数登録してもよい。
 - (オ) J-STAGE Data 電子関連資料を構成するファイルには標準的な形式を利用する。
 - (カ) J-STAGE Data 電子関連資料には以下の情報が必要である。
 - ① タイトル：英語で付す。日本語タイトルを任意で追加してもよい。
 - ② 著者：英語で付す。日本語による著者リストを任意で追加してもよい。
 - ③ 関連分野：J-STAGE Data の分野名から 1 つ以上を選択。地理学と関連が深い分野として「地球科学・天文学」「人類学・史学・地理学」「環境学」「学際科学」などがある (資料 A を参照のこと)。
 - ④ 対応する季刊地理学掲載の原稿
 - ⑤ キーワード：英語で付す。
 - ⑥ 5,000 字以内の説明：英語で付す。日本語による解説を任意で追加してもよい。
 - ⑦ ライセンスの種類
- なお、その他にも任意で付すことのできる情報もある (資料 A を参照のこと)。
- (キ) J-STAGE Data 電子関連資料は、原稿掲載後に登録を申請できる。
 - (ク) J-STAGE Data 電子関連資料は、著者自身が J-STAGE Data にアップロードし、これを編集委員会が確認・審査の上で公開を判断する。アップロード手順の詳細については、以下の資料 A を参考のこと。
- <資料 A >
https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_data_deposit_manual.pdf